原著

音楽表現に結び付く導入期の教材
――養成校における音楽的体験の模索――

森　麻希子*

Introduction Teaching Materials Leading to Music Expression
―― Search for a Musical Experience in a Training School ――

Makiko Mori

保育現場では子どもの音遊びや音楽を使った表現活動の在り方が課題となってくる。音遊びから音楽的体験へと発展するためには、指導者である保育者自身が豊かな音楽的体験を有する必要がある。本研究では養成校において、想像力を駆使して学生が音楽を表現するために必要な教材を考察した。バイエルとギロックの教材について、3拍子の曲を取り上げることにより、音楽を表現する上で必要不可欠なテンポのノリについて比較した。ギロックの教材では初歩の段階からダンスビートを通して拍子の重心を感じることができ、易しいレベルでも様々なスタイルを体感することができる。また「ガラスのくつ」のように、標題から音楽のイメージや物語を想像することができるため、音を用いたドラマを感じられる。ピアノの奏法を学ぶだけではなくピアノを通して音楽そのものを学び、想像力に結びつく表現方法へと発展させる

Key words:　音楽表現　音楽教育　ピアノ　ギロック　教材

1．はじめに

子どもが自然の中で様々な美しい音に触れること、手作り楽器や簡易楽器等を通じて音遊びをすること、歌声や器楽曲などを通して音楽の美しさに出会うことは子どもの感性や情緒、非認知機能を発達させることにつながる。保育者養成校において、子どもの音楽文化であるわらべうたや童謡、手遊びの学びは必要であるし尊重されるべきであろう。

しかし、保育者養成校において音楽を専門的に学んだことがない者が大半を占めるなかで、音遊びから音楽的体験への発展は望めるのだろうか。保育者が子どもに音楽的な体験、感動を伝えるためには、保育者自身が日々の学びの中で美的な感動を伴う音楽的体験や表現の方法を模索する必要がある。まず、日常的にどのような音が聴かれているのか、本学の卒業ゼミ履修生（森クラス:10名）に対して調べることを課題とした。図1は学生が認知した音を五十音順に表にまとめたものである。

このことから、生活に関わる人工的な音が多く認知されていることが分かる。次いで、自然に関わる音の認知が多いが、音楽に関するものに目を向けてみると更に少なく、学生の気づきの中では、「音楽（J-POP)、カラオケ、ゲームのBGM、好きな歌」の4点となっている。

文化・芸術的な音楽が意識しなくても身近に触れられる環境にない、あるいは日常にテレビ、ゲーム、店内のBGMが溢れているために、音楽のあり方が認知されていないことが示唆されているのではないだろうか。音楽は言語と同じように、空気のようにそこにあるのが望ましい。しかし、現代社会のように使い捨ての音楽が当たり前になり、文化・芸術としての音楽に日常的に触れる機会が少ないのは問題があるのではないだろうか。文化・芸術というのは人の営みの中で伝えられてこそ意味を持つ。共働きの家庭が増加する中で、親と子どもの接する時間やあり方も変わってきており、公教育や習い事などで、感動を伴う文化・芸術的音楽体験をすることは重要な意義を持つのではないだろうか。

＊　四條畷学園短期大学　保育学科

例えばフィンランドのナショナル・カリキュラムでは「日本のように「遊びを通して」保育することを強調するだけではない。美的な世界や文化的価値へのアプローチ、大人の文化へ子どもを誘うことは、教育のおおきな使命の一つとして見なされている。」[1)]

しかし2017年に告示された幼稚園教育要領の「幼児期までに終わりまでに育って欲しい姿」には「豊かな感性と表現」について記載はあるものの、芸術や文化への関心については言及されていない。[2)] 日本の公教育においても芸術文化に関する意識の低下、音楽がもたらす意義について軽視されていることが示唆されているのはないだろうか。

養成校においても子どもを指導するための音楽だけでなく、保育者を志す学生自身が音楽的な体験ができるように苦慮する必要がある。美しい音楽や心が動く音楽に出会い、感動するからこそ自ら表現したいという欲求が生まれる。音楽は文化そのものであり、それ自体が一種の言語なのだ。周知のとおり、それは一朝一夕で習得できるものではなく、音楽的言語の理解、音楽を表現するための心、音楽の表現を支えるための身体的コントロール＝テクニックの確立と拍子感が必要となる。本研究では取り扱わないが、音楽を読み解く力、すなわち読譜力も重要な課題となる。リズムや音の並びを表面的に理解するのではなく、どのような曲でも音楽の持つエネルギーや構成を読み解く必要がある。

特に短期大学の２年間で資格を取得する学生にとって音楽を学べる時間は限られている。単位取得のために課せられる日々の課題の中で、音楽的な喜びに出会わなければ、いつ出会えばいいのだろうか。ピアノの奏法だけを学ぶのではなく、ピアノを通して音楽の在り方を学び、自らの信念をもって表現しようとする心を持つことが重要なのだ。

音楽教育界の重要な作曲家であったウィリアム L. ギロック（1917―1993）は「音楽教育で一番大切な時期は初めて音楽を学ぶ生徒や初心者を導くときである」[3)] と提唱している。

保育の学生が限られた時間の中で、自発的に表現する力を育むためには、心が動くような音楽体験ができる教材に出会う必要がある。

ピアノ曲を題材としたギロックの楽曲を一例として、豊かな感性を育み、想像力を広げるためのアプローチについて考察する。

図１

自然に関する音	人工的な音		その他
雨	LINEの通知	洗顔時の水の音	眠る直前　無音
犬	赤ちゃんの泣き声	洗濯機	
おなかの鳴る音	足音	扇風機の駆動音	
風	椅子に座った時	咀嚼音	
カラス	お茶を入れる時	チャイム	
川のせせらぎ	音楽（J-POP）	机に物が当たった時	
地震	家族が用意をするときの生活音	テレビ	
すずめ	家族のいびき	電気を点灯した時	
葉っぱ同士が擦れる音	鞄を置いた時	電車内のアナウンス	
はと	カラオケ	電車の走行音	
窓の隙間風	彼氏の話し声	電子レンジ	
虫の鳴き声	換気扇の音	電話の話声	
	空調	ドアの開閉	
	くしゃみ	時計の秒針	
	車のクラクション	ドライヤーの音	
	自家用車の走行音	トラックの走行音	
	携帯のアラーム	バイクの走行音	
	携帯の着信音	パソコンのキーボードのタイピング音	
	携帯の文字を入力している時	パトカーのサイレン	
	携帯のロックを解除する音	歯を磨く時のブラシの音	
	警報発令時の音	飛行機	
	ゲームのBGM	人の笑い声	
	子どもの泣き声	布団を動かした時	
	コンビニ入店時の音	ペンが擦れる音	
	自転車の走行音	マンション上階の足音	
	しゃべり声	目覚まし	
	ショッピングカートを押す音	物を落とした時	
	好きな歌	野球の応援	
	寿司屋の店員の声	指の骨を鳴らす音	
	咳	料理中の音	

２．ギロックについて

ウィリアム・ギロックは、1917年にアメリカのミズーリ州に生まれた。彼の家族は皆、音楽を愛好しており、その影響下にあるギロック自身も３歳の頃から自己流でピアノを弾き始めている。彼の父親は和声学を学んだことがないものの、モダンなサウンドを探求しながらギロックにピアノを教えていた。

ギロックが隣町のセイジでピアノのレッスン受けていた時は、楽譜を見ずに先生の演奏を良く聴き、それを再現するというものだった。音楽を聴き模倣する事が主体のため、読譜能力は身に付かず、発表会の曲では大変な苦労をしている。

その後、ミズーリ州ファイエットにあるセントラル・メソジスト大学の美術コースへ進学したが、当時活躍していた作曲家であるライトに出会い師事することになる。ギロックは音楽コースも履修することにしたが、音楽の基礎勉強が欠けていたので２年間の補習が必要となった。その後、ライトの勧めでギロックが子どものための曲を作曲することになる。

ニューオリンズでピアノ教師をするうちに、初歩を教えることの難しさを知り、自分の音楽における基礎で欠けていたのは“耳のトレーニング”と“リズムを拍子にどう乗せていくか”であると知る。[4)]

このことから、ギロックは生まれた時から音楽が生活の一部にあったことが分かる。しかし、幼少期から身近に音楽がある生活をしていたにもかかわらず、ギロックは音楽的な基礎である“耳のトレーニング”と“リズムを拍子にどう乗せていくか”が欠けていたと述べている。音楽的な基礎能力について感覚のみに頼るのではなく、系統だった指導法が必要であることが伺える。そして、ギロックは自身の経験と40年以上にわたる教育活動からこのような言葉を残している。

> 初歩的なポイント、“音楽を表現する事”これをしっかり確認してほしいのです。全てはその事のためにあるのです。一番大切なのは、作曲者から演奏者そして聴く人の心へのストレートなコミュニケーションです。素直に表現することです。聴く人がそれを“分かち合いたい”と思わない限りそれは芸術ではないと思います。[5)]

ピアノの演奏技術を学ぶための練習をするのではなく、音楽そのものを学び表現するために技術を習得するのであり、その源となるのは心である。様々な演奏家や音楽教育者が常々述べていることではあるが、果たして保育の学生にどの程度そのことが伝えられているだろうか。

３．ギロックの教材について

（１）ダンスビートと様々なスタイル

ダンスビートや動きを感じることが出来る曲が多いのも、ギロックの特徴である。

標題とテンポの指示から「ビギナーのためのピアノ小曲集　はじめてのギロック」（以下、「はじめてのギロック」）では、少なくとも下記の曲があげられる。

・さぁ、ワルツをおどろう
　In waltz time（ワルツのリズムにのって）
・スクエア・ダンス
　With spirit（元気よく）
・ガラスのくつ
　In waltz time（ワルツのリズムにのって）
・リトルブラスバンド
　In waltz time（ワルツのリズムにのって）
・ステイトフェアー
　In march time（マーチのリズムにのって）
・インディアンの雨乞いダンス
　With strong accent（強いアクセントをつけて）
・サマータイムポルカ
　Moderato（中くらいの速さで）
・パリの花売り少女
　Tempo di valse（ワルツのリズムにのって）
・アルゼンチン
　Tempo di tango（タンゴのリズムにのって）
・ガボット
・ミュゼット
・女王様のメヌエット
　Tempo di menuetto（メヌエットのテンポで）
・おもちゃのダンス
　Allegretto（かろやかに）

調性についても長調、短調だけでなく、民族的な音階や旋法が用いられている。

その他にもギロックは様々なスタイルに触れることを意識している。

「祭り（In early classic style)」「古典的形式によるソナチネ」などバロックや古典的な響きのもの、「ギロック　叙情小曲集（原題：ロマン派様式による叙情的前奏曲)」のロマン派様式によるもの、「ギロック　アクセント・オン２」の「リズムと音楽スタイル」においても、バロック・スタイル、クラシック・スタイル、ロマンティック・スタイル、モダン・スタイルの４つの様式が学ぶことができる。「ギロック　ピアノピース・コレクション２」ではブギ、ブルース、ジャズなど新しいサウンドも積極的に取り入れられている。

保育の学生には難しいものも含まれるので、使用する際は進度に応じたものを見極める必要があるだろう。

（２）拍子と曲のイメージ

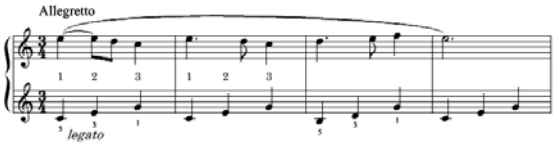
ギロックの教材では初歩の段階から良い拍子感が得られるように工夫されている。また、標題から想像力が膨らむような音楽の作りがなされている。音楽的な要素をどう学ぶかは教材によって異なるため、「標準バイエルピアノ教則本」と「はじめてのギロック」から３拍子の曲を取り上げ比較する。

◆標準バイエルピアノ教則本 NO.48

速度指示は Allegretto. 左手の伴奏型ではハ長調Ⅰ、Ⅴが分散和音の形をとられており、旋律については強拍に付点四分音符を用いたリズムを曲全体に使用している。（譜例 1[6]）

演奏する際に、左手の伴奏型では和声の響きを意識しながら３拍子の揺らぎを感じ、正しく奏されれば心地よい音楽が聴こえてくるだろう。

譜例１：標準バイエルピアノ教則本より、NO. 48



しかし、初心者が奏する場合、手のコントロールの不確さや拍子の体感的理解の不十分さから、躍動感が感じられない演奏になるのは否めない。表現とテクニックは密接に結びつくものであるが、初歩の段階では一音一音を鳴らすことに意識がいってしまい、３拍子とは言い難い重たい演奏になる危険性がある。

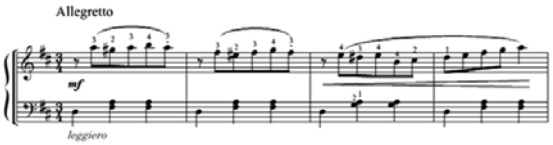
NO.48 は手のポジションや、リズムパターンの教材として意味のあるものではある。しかし、初心者が強拍・弱拍といった３拍子の重心を的確に体感するためには厳しい面があるのではないだろうか。

そして初歩の段階だからこそ音楽を表現する喜びを感じられ、ピアノの持つ様々な音色を体感できる曲を選ぶ必要がある。バイエルの練習曲では音から想像力を広げていくには限界がある。

◆標準バイエルピアノ教則本 NO.80

ニ長調、４分の３拍子、伴奏型は強拍にバスが置かれ、弱拍に和音構成音が置かれており、leggiero とあるように軽やかな３拍子が感じられる。譜例 2[7] あるように右手のメロディは休符から始まる八分音符の軽やかな音型だ。

譜例２：標準バイエルピアノ教則本より、NO. 80



中間部ではト長調に転調し、装飾音が用いられた力強いモチーフと裏拍から上行する八分音符軽やかな旋律の対比がなされている。蝶があちこちに舞うよう軽やかな曲であり、正しく奏されれば実に音楽的である。

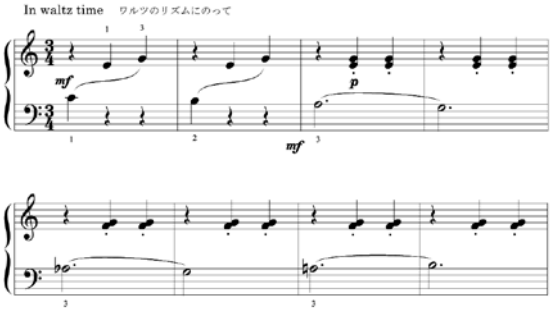
しかし「生徒」用に３拍子系の曲においてこの伴奏型が登場するのは、NO.80 が始めてである。心地よい３拍子が感じられるよう伴奏の弱拍部分では軽く演奏したいのではあるが、右手の旋律の難しさから、初歩から始めた学生にとっては読譜だけで困難を極める曲であり、重たい音で演奏されることが多い。その中で、３拍子の軽やかさを追求しようとなると、それ相応の時間と忍耐を要することになる。

次に、「はじめてのギロック」より楽曲を検証する。

◆さぁ、ワルツを踊ろう

バイエルと同じく４分の３拍子の曲ではあるが、In waltz time（ワルツのリズムにのって）と指示がある。ギロックは自身の経験からダンスビートを学ぶことの重要性を述べている。[4] この曲では全体を通して強拍に左手、弱拍に右手を用いている。１フレーズ８小節の２部形式であるが、２小節のモチーフを内包している。（譜例 3[8]）メロディはフレーズの始まる２小節では両手で奏されるが、左手に主な役割が置かれメゾフォルテで奏される。途中、A♭が響くことにより、全音と半音の違いやハーモニーの新鮮な響きをさりげなく感じられる。右手は主に伴奏を担うのだが、ワルツのリズムが感じられるようピアノ・スタッカートに奏するよう指示がある。曲の終わりでは右手と左手が交差してハ長調の分散和音で上行することにより音が解放されて終わる。

譜例３：はじめてのギロックより、「さぁ、ワルツを踊ろう」



左手にメゾフォルテ、右手にピアノとディナーミクの指示があることや、ワルツの持つリズムにより、両手で同じような強さで弾いた時と比べて、響きの取り方によって音楽がどのように変化するか感じやすい。また左手に付点２分音符が出てくるものの、右手と同時に音を奏する箇所がないので、身体的なコントロールも容易である。標題と音楽の構成が結びついていることから、３拍子のノリを体感しながら音楽を表現できる。

◆ガラスのくつ

同じくワルツテンポの用いられている３拍子の曲だ。標題に加えて、曲の終わりに「シンデレラは走り去るとき、くつをなくしました。」とあることからも分かるように、「シンデレラ」の舞踏会の場面を音楽で表している。

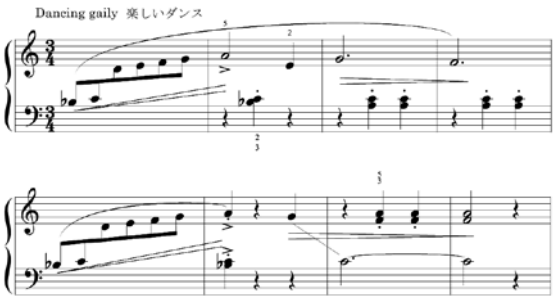
曲の冒頭部分では「さぁ、ワルツをおどろう」と同じような手法が用いられている。同じ旋律を反復するが２回目にはエコーのように、より弱く奏するように指示がある。そして３段目からのフレーズでは４小節に渡るクレッシェンドの後、４小節に渡ってデクレッシェンドが指示される。この場面では舞踏会の中でそれぞれ意中の相手を探し、相手を見つけたときの胸の高鳴り、そしてダンスの相手をして欲しいと優しく相手に語りかけ、手を取り合うシーンが想像できる。

中間部では Dancing gaily（楽しいダンス）と表記され、左手から右手へと旋律の交替が行われている。（譜例 4[9]）

八分音符が駆け上がっていくメロディの先にはアクセントを伴う２分音符があり、旋律の持つ自然なディナーミクや重心が感じられる。

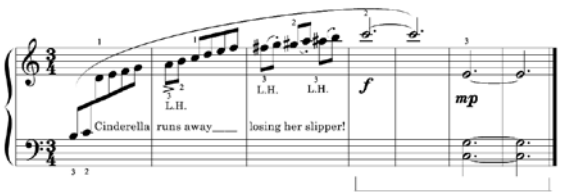
再び八分音符が駆け上がった先にはスタッカート、アクセントを持つ四分音符のリズムがあり王子とシンデレラがワルツの中で飛び上がるような楽しい情景が表現されている。

譜例４：はじめてのギロックより、「ガラスのくつ」



再現部では最初のテーマが戻り、幸せな時間が続くのかと思いきやフォルテとフェルマータで時間が止まる。０時の鐘の音が聴こえたのだろうか。八分音符の旋律が２オクターブに渡って上行していき、シンデレラは走り去っていく。最後のメゾピアノの主和音は走り去ったシンデレラを見つめる、王子の姿を現しているようにも感じられる。このように「ガラスのくつ」は誰もが知っている物語を題材とすることにより、音楽の表現に具体的な意味とイメージを持たせ、直接心に語りかけるような仕上がりとなっている。（譜例 5[9]）

譜例５：はじめてのギロックより、「ガラスのくつ」



そしてもう一つ注目したいのが、ペダルの指示だ。最後の４小節のみとはなるが、余韻を感じる音楽的にもデリケートな箇所で用いられている。不用意に最後の和音を鳴らしてしまうと、それまでの流れをこわしてしまう可能性がある。指先の感覚、音のイメージ持ち、音色を耳でよく聴きことにより、注意深く響きを感じないと美しく終われないだろう。もちろんペダルを使用しないで終わることもできるが、初歩の段階から少しずつペダルの効果に慣れておく必要がある。複雑な曲になってからの使用は音を聴くことに注意が向きにくくなるからだ。

このようにギロックの曲では、音楽の中で自然に拍子の重さ、軽さを感じることができる。そしてフレーズの持つ音楽的な高まりを感じることにより、自然にディナーミクを得られるものが多い。だが、バイエルのように伴奏型がパターン化されていないので、左手の基本的な伴奏型を習得したい場合には不向きだと言える。以下、簡単ではあるがバイエルとギロックの違いをまとめてみた。

バイエル

４分音符、８分音符を基準とした拍子が系統だって構成されている。
アルベルティバスが多用されている。
伴奏は主要３和音で構成されている。
ペダルの指示はない。
左手に伴奏がくることが多い。
様々なリズムパターンの学習ができる。
短調の曲が少なく、スタイルも限られている。

ギロック

８分音符を基準とした拍子が少ない
初歩の段階から拍子のノリを感じやすい。
アルベルティバスの音型が少ない
色々なスタイルの曲がある。
様々なハーモニーが用いられている。
ペダルの指示がある。
タイトルから音楽の持つ意味を想像しやすい。

ギロック、バイエルの教材にはそれぞれ教育的な効果が期待される。初歩の段階から想像力や表現力、拍子の揺らぎを体感するには前者が向いているだろう。左手の伴奏型のパターンにメロディをのせる訓練にはバイエルが向いている。いずれにせよ教育者は学生が心から表現したいと思えるような教材を提供する必要がある。

４．おわりにかえて

近年、保育現場でもリトミックが注目される中で、子どもが音楽的な充足感を持てるように保育者が様々なダンスビートや様式のレパートリーを持っておくことは決して無駄ではないだろう。様々なスタイルの曲は多様な感性を育むことにも繋がる。また学生自身が好ましいと思える曲に出会うことは学ぶ上で良い動機付けになり、積極的に表現することへとつながる。保育現場での実践からいうと、童謡を勉強する事も大きな意義があるだろう。しかし、童謡の場合、自身の経験から先入観のみで演奏される場合があることや、歌詞とメロディが関係を持つために、音そのものがもつ自由なイメージが限定されることがある。そして、素朴でかわいらしいものも多いため、音楽的な高まりというのは感じにくい一面があるように思う。学生の想像力を広げ表現する力を高めるには、音楽をBGMとして捉えるのではなく、言語を用いない表現方法として心のうちから相手に語りかけるギロックのような教材を併用することが望ましいのではないだろうか。

本学の学生においても、単位取得のためにピアノ学ぶことにプレッシャーを感じるという声を聞く事があった。シラバスに時間外学習が明確に位置づけられる中で、限りある時間内で技術を習得することは時に苦しいことである。そして、中には音楽が苦手だと意識を持ったまま現場へ出るものもいるだろう。しかし、何も難しい曲を弾きこなそうとする必要はないのだ。易しい曲であっても、音楽を心から感じ、積極的に表現することの喜びを持つことに価値があるのだ。

引用文献・楽譜

（１）永岡　郁（2015）：フィンランドの幼児教育における音楽教育の意義と実践――ナショナル・カリキュラムと「音楽プレイスクール」をめぐって――．学苑・初等教育学科紀要　NO896　p.51
（２）無藤　隆（2017）：幼稚園教育要領ハンドブック

2017 年告示板．学研．pp166 － 168
（3）ウィリアム･ギロック．訳･解説．安田裕子（2002）：ピアノ・オール・ザ・ウェイ！レベル１B　全音楽譜出版社．p. 4
（4）ウィリアム･ギロック．訳･解説．安田裕子（1996）：ギロック　ピアノピース・コレクション１．全音楽譜出版社．pp.4 － 5
（5）同上．p.5
（6）バイエル：標準バイエルピアノ教則本・併用曲付．全音楽譜出版社．p.37
（7）同上．p.54
（8）ウィリアム･ギロック．訳･解説　安田裕子（1997）：ビギナーのためのピアノ小曲集　はじめてのギロック．全音楽譜出版社．p.7
（9）同上．pp.18 － 20

参考文献・楽譜

・著者　呉　暁．文　山本美芽（2005）：練習しないで上達する　導入期のピアノ指導．音楽之友社
・松井裕樹、松永洋介（2017）：教員養成課程におけるピアノ実技の考察―ギロック作品の導入と効果―．岐阜大学教育学部研究報告．
・赤井裕美（2016）：ピアノを中心とした「保育音楽力」の在り方と養成校の音楽授業に関する考察．湘北短期大学紀要　第 37 号
・保育士養成課程検討会（2017）：保育士養成課程の教科目の教授内容等について（素案）
・ウィリアム・ギロック．編・解説　日下部憲夫：こどものためのアルバム　全音楽譜出版社
・ウィリアム・ギロック．訳・解説　安田裕子（2002）：ピアノ・オール・ザ・ウェイ！レベル２－４　全音楽譜出版社．
・ウィリアム・ギロック．訳・解説　安田裕子：ギロック　アクセント・オン 1, 2．全音楽譜出版社．

－ 2018.8.17 受稿、2018.8.18 受理－